令和３年８月６日（金曜日）

建設通信新聞

早期復旧の必要性強調

足立議員 熊本、鹿児島を視察

自民党の足立敏之参院議員は、7月29、30日に熊本、鹿児島両県を視察した。熊本県では２０２０年７月の豪雨により被災した球磨川沿川地域の復旧状況を確認。鹿児島県では7月の大雨特別警報が出された出水に当たってのインフラの整備効果について説明を受けた＝写真。足立議員は熊本の早期復旧の必要性を強調するとともに、「（鹿児島の豪雨では）対策が功を奏して被害を最小限にとどめた」と語った。

7月29日に訪問した球磨川沿川地域では、国道や県道が通行可能となっていることを確認した。一方で、ＪＲ肥薩線や住宅の復旧は進んでおらず、継続して取り組んでいく必要があると訴えた。

同30日には鹿児島県に入り、川内川の推込(しごめ)分水路と鶴田ダムを視察した。川内川では06年に戦後最大の被害をもたらした洪水が発生したことを受け、河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）を実施。ことしの7月の大雨では12時間雨量が06年時を超えたが、国管理区間の氾濫による被害はなかった。

足立議員は07年に川内川の河川整備基本方針の策定に当たったことを振り返りながら、「大雨特別警報は空振りではない。治水対策の効果が発揮されたことに光を当てるべきだ」と力を込めた。ダム再開発などにより洪水調節容量の増強を進めてきた鶴田ダムには地域住民から感謝の声が寄せられていたことにも触れ、改めて防災・減災、国土強靱化投資の重要性を強調した。